

行政視察報告書

令和7年8月3日

長浜市議会議長 高山 亨様

長浜市議会議員

大橋延行

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 北海道行政視察
2. 視察期間 令和7年7月14日(月)～7月16日(水)
3. 視察場所及び目的
 - ①北海道小樽市・ライトアップによる観光地の魅力向上について
 - ②北海道札幌市北海道がんセンター・放射線治療の現状と展望について
 - ③北海道函館市縄文文化交流センター・博物館の展示と運営について
 - ④北海道函館市役所・観光を通じた地域経済の活性化と持続可能な体制づくりについて

4-①調査内容感想等

- ①北海道小樽市・ライトアップによる観光地の魅力向上について

・視察目的

近年、多くの観光地では、夜間景観の演出や魅力的な空間づくりを進めることで、昼間だけでなく夜間にも観光客を呼び込み、滞在時間の拡大や地域経済の活性化につながる取組が進められています。

長浜市においても、観光客の満足度向上やインバウンド需要への対応、さらには観光消費の拡大が重要な課題となっています。そこで、歴史的景観を活かしながら夜間観光の魅力向上に成功している小樽運河の事例について、その取組内容や効果、運営手法などを学び、本市における今後の観光施策の検討に活かすことを目的として視察を実施しました。

・視察内容

現地を訪れてまず感じたのは、昼夜を問わず多くの人々が訪れる観光地としての活気でした。平日の訪問にもかかわらず、小樽運河周辺には国内外からの観光客が数多く見られ、夜間においても賑わいが続いています。

特に印象に残ったのは、歴史ある倉庫群がまちの魅力を象徴する存在として活用されていることです。かつては十分な価値が見出されていなかった建物が、景観整備や利活用によって観光資源へと生まれ変わり、地域経済にも大きく貢献していました。

さらに、観光客への受入体制も充実しており、日本語だけでなく英語、中国語、韓国語による案内資料や地図が用意されていました。観光案内所も夜間まで開設されており、海外からの来訪者が安心して観光できる環境づくりが進められていることがうかがえました。



・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

今回の視察を通じて、歴史的なまちなみを観光資源として活かすためには、昼間だけでなく夜間の魅力づくりが重要であることを改めて認識しました。

小樽では、景観演出や多言語による案内など、観光客が快適に滞在できる環境整備が進められており、滞在時間の延長や誘客につながっていました。

長浜市においても、既存の歴史資源や地域の特色に新たな価値を加える視点を持ちながら、観光客に選ばれる魅力あるまちづくりを進めていく必要があると感じました。

4-②調査内容感想等

②北海道札幌市北海道がんセンター・放射線治療の現状と展望について

・視察目的

がん医療においては、患者の身体的負担を軽減しながら高い治療効果が期待できる放射線治療が重要な役割を担っています。しかし、専門的な設備や人材が必要で

あることから、十分に活用されているとは言えない状況があります。

そこで、放射線治療分野を長年けん引してこられた西尾正道名誉院長から先進的な取組や課題について学ぶため、北海道がんセンターを訪問しました。長浜市における今後のがん医療の充実や治療体制のあり方を考える上で、大変有意義な視察となりました。

・視察内容

視察先の北海道がんセンターでは、放射線治療体制の充実ぶりが非常に印象的でした。専門医が多数在籍し、高度な放射線治療を継続的に提供できる環境が整えられていました。

放射線治療は、身体への負担を抑えながら治療できることが大きな特徴であり、治療後の日常生活への影響も比較的少ないとされています。私自身も放射線治療を受けた経験から、その有効性や重要性を実感しています。

一方で、高額な設備投資や運営コストが必要となることから、医療機関にとっては導入や維持が容易ではないという課題も伺いました。患者にとって有益な治療法であるだけに、今後さらに理解と普及が進むことが期待されます。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

市立長浜病院が地域がん診療連携拠点病院としての機能を維持・向上していくためには、放射線治療体制のさらなる強化が重要であると感じました。

放射線治療は、患者の身体的負担を軽減できる治療法の一つであり、治療の選択肢を充実させることは、地域医療の質の向上にもつながります。

また、治療内容や効果について市民の理解を深める取組も必要です。今後は、人材確保や医療環境の充実を図りながら、患者が安心して適切な治療を受けられる体制づくりを進めていくことが望まれます。

4-③調査内容感想等

③北海道函館市縄文文化交流センター・博物館の展示と運営について

・視察目的

世界文化遺産に登録された縄文遺跡群の魅力や保存・活用の取組を学ぶため、函館市縄文文化交流センターを訪問しました。

施設では、縄文時代の歴史や文化を分かりやすく伝える展示が行われており、運営手法や施設整備の考え方についても理解を深めることができました。今回の視察で得た知見を、今後の(仮称)長浜戦国ミュージアムの整備・運営の検討に活かしていきたいと考えます。

・視察内容

函館市縄文文化交流センターでは、縄文時代の人々の生活や文化について、多角的に学ぶことができる展示が行われていました。館内には出土品や復元資料が数多く展示されており、当時の暮らしや価値観を分かりやすく伝える工夫が随所に見られました。



また、体験型の学習スペースも設けられており、来館者が縄文文化を身近に感じられる環境が整備されていました。国宝に指定された土偶の展示は特に注目を集めており、施設の大きな魅力となっていました。さらに、周辺には広大な遺跡エリアが保存されており、縄文文化の歴史的価値や規模の大きさを実感することができました。今回の視察を通じて、文化財の保存だけでなく、その価値を分かりやすく伝え、次世代へ継承していくための展示や運営の重要性を学ぶことができました。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

今回の視察では、文化施設は資料を展示するだけでなく、来館者が歴史や文化の背景を理解し、興味を深められる工夫が重要であることを学びました。

また、地域の貴重な文化財の魅力を効果的に発信するとともに、施設の規模や運営経費を踏まえた持続可能な運営が求められることも認識しました。

長浜市においても、歴史資源の価値を最大限に活かしながら、市民や観光客に親しまれる施設となるよう、整備内容や運営手法について十分な検討が必要であると感じました。

4-④調査内容感想等

④北海道函館市役所・観光を通じた地域経済の活性化と持続可能な体制づくりについて

・視察目的

函館市では、人口減少や高齢化が進む中、観光を地域活性化の重要な柱として位置付け、交流人口の拡大によるまちづくりを進めています。

今回の視察では、観光資源を活かした地域経済の活性化策や観光振興における課題について学びました。得られた知見を、長浜市における今後の観光施策や地域のにぎわい創出に活かしていきたいと考えます。

・視察内容

函館市では、国内外から多くの観光客を迎え入れており、近年はインバウンド需要の回復や交通アクセスの向上を背景に、観光客数が大きく伸びています。特に海外からの来訪者が増加しており、観光都市としての存在感を高めていることがうかがえました。

また、市では新たな観光計画のもと、来訪者数の増加だけでなく、滞在中の消費拡大や観光の質の向上にも重点を置いた取組を進めています。観光を地域経済の活性化につなげる視点が明確であり、観光産業だけでなく地域全体への波及効果を意識した施策展開が印象に残りました。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

今回の視察を通じて、観光を単なる誘客施策としてではなく、地域の活力向上につながる視点の重要性を学びました。長浜市においても、豊かな歴史や自然を活かしながら、地域への経済効果を高める取組が求められます。

また、多くの観光客を受け入れるだけでなく、快適に滞在していただける環境づくりも欠かせません。今後は、観光客と地域住民の双方に配慮しながら、持続可能な観光振興のあり方を検討していく必要があると感じました。